

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2022年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合 殿

日本工業規格表示認証工場  
 深江産業株式会社  
 江田島市大柿町深江2153番地の1  
 TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328  
 配合計画者名 中野 貴之

工事名称		配合計画書										
所在地												
納入予定時期												
本配合の適用期間 a)		上記期間と同じ (修正標準配合)										
コンクリートの打込み箇所												
配合の設計条件												
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>a)</sup> 又はスランプ <sup>b)</sup> フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号							
	普通	24	12	20	BB							
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載							
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB							
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>							
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	℃							
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%							
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>							
	呼び強度を保証する材齢	日		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>							
	空気量	%		流動化後のスランプ増大量	cm							
使用材料 c)												
セメント	生産者名	株式会社トクヤマ		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq %	d)					
混和材①	製品名			種類			密度 g/cm <sup>3</sup>					
混和材②	製品名			種類			Na <sub>2</sub> O eq %	e)				
骨材	No.	種類	産地又は品名	7) 骨材の反応性による区分 f)	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量の範囲 % i)				
	細①	砂	広島県呉市蒲刈町産	A 化学法	5 以下	2.85	2.53	2.57				
	骨②	砕砂(石灰石)	福岡県北九州市小倉南区産	A 化学法	2.5 以下	2.50	2.67	2.67 3.0±2.0				
	粗①	砕石	広島県呉市蒲刈町向	A 化学法	20~5	60.7	2.71	2.72 1.0±1.0				
骨②	砕石	広島県呉市蒲刈町向	A 化学法	20~5	60.7	2.71	2.72 1.0±1.0					
骨③												
骨④												
混和剤①	製品名	フローリックSV10L	AE減水剤(標準形 I 種)				Na <sub>2</sub> O eq %	j)				
混和剤②	製品名		種類				Na <sub>2</sub> O eq %	1.0				
混和剤③	製品名		種類				Na <sub>2</sub> O eq %					
細骨材の塩化物量 k)	①0.001% ②0.000%		水の区分 l)	回収水(上澄水)	目標スラッジ固形分率 m)	%						
回収骨材の使用法 n)	細骨材		粗骨材		安定化スラッジ水の使用の有・無							
配合表 o) kg/m <sup>3</sup>												
セメント	混和材		細骨材			粗骨材				混和剤 p)		
	①	②	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
306			586	259		495	495			2.45		
水セメント比 q)	53.9%		水結合材比 q)			%				細骨材率		
										47.2%		
備考	骨材の質量配合割合 <sup>h)</sup> 、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。					骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:②		70.0:30.0		
								粗骨材①:②		50.0:50.0		

注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 注 b) 標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準的な配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が規定の範囲を越えて変動する場合に修正を行ったものとする。  
 注 c) 戻り土の区分欄の記載事項を、そのまゝ記入する。  
 注 d) 配合設計に用いた材料について、①を記入する。  
 注 e) 骨材の最大粒径及び骨質係数を記入する。JIS R 5210の全アルカリの値としては、直近6ヶ月間の試験成績表に記載されている、全アルカリの最大値の最大値を記入する。  
 注 f) 最高級の混和剤試験成績表の値を記入する。  
 注 g) アルカリシリカ反応性による区分、及び用途に用いた試験方法を記入する。  
 注 h) 骨材に対しては、砕砂、スラッグ骨材、人工軽集骨材、及び再生細骨材については粒の大きさの範囲を記入する。粗骨材に対しては、砕石、スラッグ骨材、人工軽集骨材、及び再生粗骨材については粒の大きさの範囲を、砂利では最大値を記入する。  
 注 i) 骨材に対しては粗粒率の値を、粗骨材に対しては、実積率又は粗粒率の値を記入する。  
 注 j) 砕石、砕砂及びスラッグ骨材を使用する場合は、①を記入する。  
 注 k) 最高級の骨材試験成績表の値 (単位として) を記入する。  
 注 l) 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、「回収水(スラッジ水)」と記入する。  
 注 m) スラッジ水を使用する場合は、目標スラッジ固形分率とは、5%以下のスラッジ固形分率の範囲を保証できるように定められた値である。また、スラッジ固形分率が1%未満で使用する場合は、「1%未満」と記入する。  
 注 n) 回収骨材の使用法を記入する。回収骨材使用率の上限が5%以下の場合は「A方法」、20%以下の場合は「B方法」と記入する。  
 注 o) 人工軽集骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は、表面乾燥状態の質量で表す。  
 注 p) 空気量欄には、記入する必要はない。  
 注 q) セメントだけを適用した場合は、水セメント比を記入する。高炉スラッグ微粉末、フライアッシュ、シリカフューム又は膨張材を結合材として使用した場合は、水結合材比だけを記入するか、又は水結合材比及び水セメント比の両方を記入する。  
 注 r) 骨材の質量に対する骨材の計量設定割合を記入する。  
 注 s) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を詳しくだけ記入する。  
 注 t) 購入者から追加を受けたアルカリ量を併用して計算する。  
 注 u) 付着モルタルのスクリーニングに用いた場合の全アルカリ量は、6.62 によって求めた値を、安定化スラッジ水の作製に用いた場合の全アルカリ量は、6.62 によって求めた値を記入する。

配合計算書

配 合 の 設 計 条 件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢			単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量			流動化後のスランプ増大量	cm

- (1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10.0 %
- (2) 配合強度(m)
- $$m_1 = \frac{0.85 \cdot S_L}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 29.1 \text{ N/mm}^2 \quad m_2 = \frac{S_L}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 30.0 \text{ N/mm}^2$$
- よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>
- (3) 水セメント比(W/C)  $m = -14.7 + 24.1 \times C/W$   
 $W/C = 24.1 \div (30.0 + 14.7) \times 100 = 53.9 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$   
 $\therefore W/C = 53.9 \%$
- (4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 165 kg/m<sup>3</sup>
- (5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 165 \div 53.9 \times 100 = 306 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 306 \div 3.04 = 101 \text{ L/m}^3$
- (6) 空気量(A)  $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$
- (7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.600 m<sup>3</sup>/m<sup>3</sup> 実積率 = 60.7 %  
 $G_v = 0.600 \times 1000 \times 60.7 \div 100 = 364 \text{ L/m}^3$   
 $G_{1v} = G_v \times 50.0 \% = 182 \text{ L/m}^3$   $G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 182 \times 2.72 = 495 \text{ kg/m}^3$   
 $G_{2v} = G_v - G_{1v} = 182 \text{ L/m}^3$   $G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 182 \times 2.72 = 495 \text{ kg/m}^3$
- (8) 単位細骨材量(S)  $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 675 = 325 \text{ L/m}^3$   
 $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 228 \text{ L/m}^3$   $S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 228 \times 2.57 = 586 \text{ kg/m}^3$   
 $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 97 \text{ L/m}^3$   $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 97 \times 2.67 = 259 \text{ kg/m}^3$
- (9) 細骨材率(s/a)  $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 47.2 \%$
- (10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 306 \times 0.8000 \% \times 1.00 = 2.45 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
306			165	586	259		495	495			2.45		
水セメント比	53.9 %		細骨材率	47.2 %			骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:② 粗骨材①:②		70.0:30.0 50.0:50.0		

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2022年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合 殿

日本工業規格表示認証工場  
 深江産業株式会社  
 江田島市大柿町深江2153番地の1  
 TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328  
 配合計画者名 中野 貴之

工 事 名 称	配合計画書
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本配合の適用期間 a)	上記期間と同じ (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング <sup>1)</sup> 又はスラングフロー <sup>2)</sup> cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空 気 量	%		流動化後のスラング増大量	cm

使 用 材 料 c)

セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq % d)	
------	------	----------	----------------------	------	---------------------------	--

混和材①	製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O eq % e)	
混和材②								

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲 % i)
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細	①	砂	広島県呉市蒲刈町産	A	化学法	5 以下	2.85	2.53	2.57	
骨	②	砕砂(石灰石)	福岡県北九州市小倉南区産	A	化学法	2.5 以下	2.50	2.67	2.67	3.0±2.0
材	③									
粗	①	碎石	広島県呉市蒲刈町向	A	化学法	20~5	60.7	2.71	2.72	1.0±1.0
骨	②	碎石	広島県呉市蒲刈町向	A	化学法	20~5	60.7	2.71	2.72	1.0±1.0
材	③									
材	④									

混和剤①	フローリックSV10L		AE減水剤(標準形 I 種)					Na <sub>2</sub> O eq % j)	1.0
混和剤②	製品名		種類						
混和剤③									

細骨材の塩化物量 k)	①0.001% ②0.000%	水の区分 l)	回収水(上澄水)	目標スラング <sup>3)</sup> 固形分率 m)	%
回収骨材の使用法 n)	細 骨 材	粗 骨 材		安定化スラング水の使用の有・無	

配 合 表 o) kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤 p)			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
306			165	586	259		495	495				1.96		

水セメント比 q)	53.9 %	水結合材比 q)	% 細 骨 材 率			47.2 %
-----------	--------	----------	-----------	--	--	--------

備考	骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。			骨材混合比	細骨材①:②	70.0:30.0
	冬期修正標準配合期間(12月11日~3月10日)は混和剤を20%減とする。			(容積混合)	粗骨材①:②	50.0:50.0

注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 注 b) 標準配合とは、レディーミクストコンクリートと同等で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の標準時間における標準配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、調整時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が規定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。  
 注 c) 表 1 の記号欄の記載事項を、そのままで記入する。  
 注 d) ボルトランドセメント及び普通ポルトランドセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210の全アルカリの値として、直近5か月間の試験成績表に示されている、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。  
 注 e) 最新版の規格試験成績表の値を記入する。  
 注 f) 骨材に対しては、砂、砕砂、碎石、人工軽集骨材、及び再生細骨材については粒の大きさの範囲を記入する。粗骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材、人工軽集骨材、及び再生粗骨材については粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。  
 注 g) 細骨材に対しては、砕砂、碎石、人工軽集骨材、及び再生細骨材については、実積率又は粗粒率の値を記入する。砕砂、砕砂及びスラグ骨材を使用する場合に記入する。  
 注 h) 最新版の規格試験成績表の値を記入する。  
 注 i) 最新版の規格試験成績表の値 (NaClとして) を記入する。  
 注 j) 同表のフローリックSV10Lを使用する場合は、「回収水(スラング水)」と記入する。  
 注 k) スラング水を使用する場合に記入する。目標スラング固形分率とは、3%以上のスラング固形分率の限度を保證できるように定めた値である。また、スラング固形分率を1%未満で使用する場合には、「1%未満」と記入する。  
 注 l) 回収骨材の使用法を記入する。回収骨材使用率の上限が5%以下の場合は「A方法」、20%以下の場合は「B方法」と記入する。  
 注 m) 人工軽集骨材の場合は、絶乾状態の質量で、その他の骨材の場合は、表面乾燥状態の質量で記入する。  
 注 n) 完全乾燥状態に記入する。  
 注 o) セメントだけを適用する場合に、水セメント比を記入する。高炉スラグ微粉末、フライアッシュ、シリカフューム又は膨脹材を骨材として使用した場合は、水結合材比だけを記入するか、又は水結合材比及び水セメント比の両方を記入する。  
 注 p) 骨材の質量に対する骨材の計量定割合をいう。  
 注 q) 購入者から通知を受けたスラング水を使用しない場合。  
 注 r) 骨材をポルトランドセメントに使用した場合の全アルカリ値は、F.6.2 によって求めた値を、安定化スラング水の作製に用いた場合の全アルカリ値は、B.2 によって求めた値を記入する。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ又はスラブフォーム cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	°C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢			単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量			% 流動化後のスラブ増大量	cm

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10.0 %

(2) 配合強度(m)  

$$m_1 = \frac{0.85 \cdot S_L}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 29.1 \text{ N/mm}^2 \quad m_2 = \frac{S_L}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 30.0 \text{ N/mm}^2$$
 よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C)  $m = -14.7 + 24.1 \times C/W$   
 $W/C = 24.1 \div (30.0 + 14.7) \times 100 = 53.9 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$   
 $\therefore W/C = 53.9 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 165 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 165 \div 53.9 \times 100 = 306 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 306 \div 3.04 = 101 \text{ L/m}^3$

(6) 空気量(A)  $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$

(7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.600 m<sup>3</sup>/m<sup>3</sup> 実積率 = 60.7 %  
 $G_v = 0.600 \times 1000 \times 60.7 \div 100 = 364 \text{ L/m}^3$   
 $G_{1v} = G_v \times 50.0 \% = 182 \text{ L/m}^3$   $G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 182 \times 2.72 = 495 \text{ kg/m}^3$   
 $G_{2v} = G_v - G_{1v} = 182 \text{ L/m}^3$   $G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 182 \times 2.72 = 495 \text{ kg/m}^3$

(8) 単位細骨材量(S)  $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 675 = 325 \text{ L/m}^3$   
 $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 228 \text{ L/m}^3$   $S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 228 \times 2.57 = 586 \text{ kg/m}^3$   
 $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 97 \text{ L/m}^3$   $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 97 \times 2.67 = 259 \text{ kg/m}^3$

(9) 細骨材率(s/a)  $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 47.2 \%$

(10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 306 \times 0.6400 \% \times 1.00 = 1.96 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
306			165	586	259		495	495			1.96		
水セメント比	53.9 %		細骨材率	47.2 %			骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:② 粗骨材①:②		70.0:30.0 50.0:50.0		

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2022年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合 殿

日本工業規格表示認証工場  
 深江産業株式会社  
 江田島市大柿町深江2153番地の1  
 TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328  
 配合計画者名 中野 貴之

工事名称		配合計画書										
所在地												
納入予定時期												
本配合の適用期間 a)		上記期間と同じ (修正標準配合)										
コンクリートの打込み箇所												
配合の設計条件												
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度		スラップ 又はスラップフォー cm		粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号			
	普通		24		12		20		BB			
指定事項 (必須)	セメントの種類		呼び方欄に記載			粗骨材の最大寸法		呼び方欄に記載				
	骨材の種類		使用材料欄に記載			アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)		BB				
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分		使用材料欄に記載			軽量コンクリートの単位容積質量		kg/m <sup>3</sup>				
	水の区分		使用材料欄に記載			コンクリートの温度		℃				
	混和材料の種類及び使用量		使用材料及び配合表欄に記載			水セメント比の目標値の上限		55%				
	塩化物含有量		0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下			単位水量の目標値の上限		kg/m <sup>3</sup>				
	呼び強度を保證する材齢		日			単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限		kg/m <sup>3</sup>				
空気量		%			流動化後のスラップ増大量		cm					
使用材料 c)												
セメント生産者名		株式会社トクヤマ				密度 g/cm <sup>3</sup>		3.04		Na <sub>2</sub> O eq % d)		
混和材①		製品名		種類		密度 g/cm <sup>3</sup>		Na <sub>2</sub> O eq % e)				
混和材②												
骨材	No.	種類	産地又は品名	呼び方による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲 % i)		
				区分 試験方法				絶乾表乾				
細骨材	①	砂	広島県呉市蒲刈町産	A 化学法		5 以下	2.85	2.53	2.57			
骨材	②	砕砂(石灰石)	福岡県北九州市小倉南区産	A 化学法		2.5 以下	2.50	2.67	2.67	3.0±2.0		
粗骨材	③											
粗骨材	①	砕石	広島県呉市蒲刈町向	A 化学法		20~5	60.7	2.71	2.72	1.0±1.0		
				A 化学法						1.0±1.0		
粗骨材	②	砕石	広島県呉市蒲刈町向	A 化学法		20~5	60.7	2.71	2.72	1.0±1.0		
粗骨材	③											
粗骨材	④											
混和剤①		フローリックSV10L		AE減水剤(標準形I種)				Na <sub>2</sub> O eq % j)		1.0		
混和剤②		製品名		種類								
混和剤③												
細骨材の塩化物量 k)		①0.001% ②0.000%		水の区分 l)		回収水(上澄水)		目標スラッグ固形分率 m)		%		
回収骨材の使用法 n)		細骨材		粗骨材				安定化スラッグ水の使用の有・無				
配合表 o) kg/m <sup>3</sup>												
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤 p)	
	① ②			① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③						
306		165		586	259	495	495			2.94		
水セメント比 q)		53.9%		水結合材比 q)		%				細骨材率		47.2%
備考		骨材の質量割合(配合)、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。夏期修正標準配合期間(6月11日~9月30日)は混和剤を20%増とする。				骨材混合比		細骨材①:②		70.0:30.0		
						(容積混合)		粗骨材①:②		50.0:50.0		

注 a) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。  
 b) 配合と標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の標準期間における標準配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で規定した温度より大幅に相違する場合、標準期間が標準状態から大幅に変化する場合は、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行うものとする。  
 c) 京浜11の記号欄の記載事項を、そのまゝ記入する。  
 d) 骨材に対するアルカリ反応性試験結果を、そのまゝ記入する。  
 e) 配合設計に用いた材料について記入する。  
 f) 最新版の骨材試験成績表の値を記入する。  
 g) 骨材の最大粒径を記入する。  
 h) 骨材の粗粒率又は実積率を記入する。  
 i) 骨材の密度を記入する。  
 j) 骨材のNa<sub>2</sub>O eq %を記入する。  
 k) 骨材の塩化物含有量を記入する。  
 l) 骨材の水区分を記入する。  
 m) 骨材の回収水の使用法を記入する。  
 n) 骨材の安定化スラッグ水の使用の有・無を記入する。  
 o) 配合表の値を記入する。  
 p) 骨材の品質割合(配合)、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。  
 q) 骨材の質量割合(配合)、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。  
 r) 骨材の容積混合比を記入する。  
 s) コンクリート中のアルカリ総量を現前する抑制対策の方法を併せる場合にだけ記入する。  
 t) 購入者から通知を受けたアルカリ総量を併せて記入する。  
 u) 付着モルタルのスクリーニングに使用した場合の全アルカリ量は、B.6.2 によって求めた値を、安定化スラッグ水の作製に用いた場合の全アルカリ量は、B.6.2 によって求めた値を記入する。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ又はスラブフォーム cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	℃
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55%
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢			単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	kg/m <sup>3</sup>
	空気量			% 流動化後のスラブ増大量	cm

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10.0 %

(2) 配合強度(m)

$$m_1 = \frac{0.85 \cdot S_L}{1 - \frac{3.0 \cdot v}{100}} = 29.1 \text{ N/mm}^2 \quad m_2 = \frac{S_L}{1 - \frac{2.0 \cdot v}{100}} = 30.0 \text{ N/mm}^2$$

よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C)  $m = -14.7 + 24.1 \times C/W$   
 $W/C = 24.1 \div (30.0 + 14.7) \times 100 = 53.9 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$   
 $\therefore W/C = 53.9 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 165 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 165 \div 53.9 \times 100 = 306 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 306 \div 3.04 = 101 \text{ L/m}^3$

(6) 空気量(A)  $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$

(7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.600 m<sup>3</sup>/m<sup>3</sup> 実積率 = 60.7 %  
 $G_v = 0.600 \times 1000 \times 60.7 \div 100 = 364 \text{ L/m}^3$   
 $G_{1v} = G_v \times 50.0 \% = 182 \text{ L/m}^3$   $G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 182 \times 2.72 = 495 \text{ kg/m}^3$   
 $G_{2v} = G_v - G_{1v} = 182 \text{ L/m}^3$   $G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 182 \times 2.72 = 495 \text{ kg/m}^3$

(8) 単位細骨材量(S)  $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 675 = 325 \text{ L/m}^3$   
 $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 228 \text{ L/m}^3$   $S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 228 \times 2.57 = 586 \text{ kg/m}^3$   
 $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 97 \text{ L/m}^3$   $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 97 \times 2.67 = 259 \text{ kg/m}^3$

(9) 細骨材率(s/a)  $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 47.2 \%$

(10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 306 \times 0.9600 \% \times 1.00 = 2.94 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
306			165	586	259		495	495				2.94		
水セメント比	53.9 %		細骨材率	47.2 %			骨材混合比 (容積混合)		細骨材①:② 粗骨材①:②		70.0:30.0 50.0:50.0			

備考